

「ナツミカンの木の教材性(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

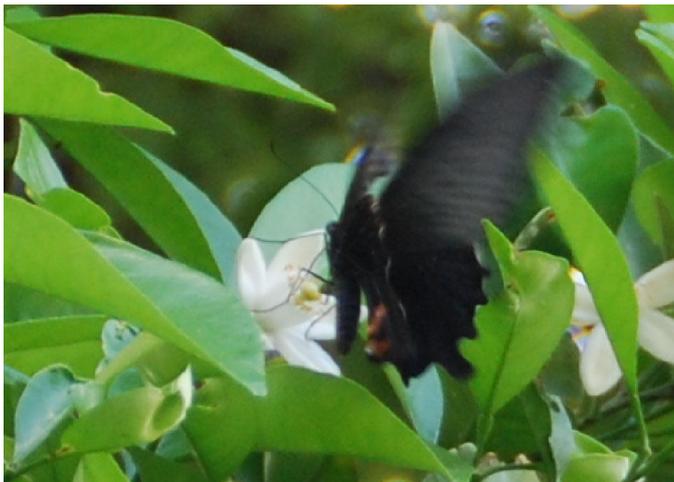
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ナツミカンの木には多くの昆虫が訪れる。クマバチはよく来る昆虫の一つだ。



クマバチ(いわゆる「熊蜂」)は、黒くて大型で、ブンブン翅音をたてて飛ぶので、いかにも恐ろしげだが、実は極めて温厚なハチで、人を刺すことはほとんどない。オスには毒針すらなく、手のひらに載せても大丈夫だ。アカシアやフジなどのマメ科の花を好むが、今の時期はミカンの花がターゲットのようだ。



アゲハもよく来る。ナミアゲハ(普通のアゲハ)が多いが、アオスジアゲハ、クロアゲハ(写真)もよく見る。アゲハが来るのは、主として産卵の為だ。幼虫が柑橘類(ミカン、ナツミカン、サンショウなど)の葉を好んで食べるからだ。ミカンの木は葉を食べられると、ある種の「匂い物質」を放出し、肉食性のハチ

を呼び寄せるらしい。つまり、ミカンの木の立場では、アゲハ類は「邪魔な存在」だと思っていた。

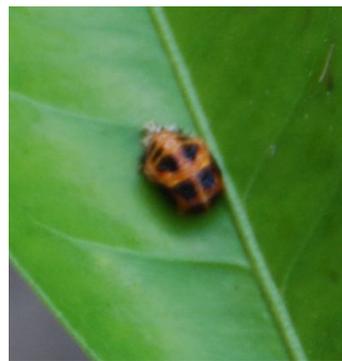


しかし、このクロアゲハは、産卵行動は見られず、盛んに吸蜜をしていた。つまり送粉もしていることになり、ミカンの木にとっても役立っていることになる。



テントウムシの幼虫も多い。葉の根元や枝に、エサになるアブラムシが多いからだ。コイツは幼虫のくせに、成虫

と同じような肢を持ち、かなりのスピードで歩く。まことに幼虫らしくない、あるまじき行為だ。



テントウムシは、完全変態である。従ってサナギもよく見つかる。「動かないテントウムシ」という感じの姿なので、葉っぱごと採取して、そのまま蓋付きシャーレに入れておくと良い。



これがテントウムシの羽化の一瞬である。ナミテントウの19星型なのだが、羽化直後は黄色くて模様がない。その後、ポラロイド写真のように、少しずつ模様が現れるのだ。